

県医活動報告

日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック会議

日時：平成23年12月4日(日)

場所：鹿児島県医師会館

報告：女性医師の会会長 谷口 邦子

報告・協議事項

- 1) 日本医師会女性医師支援センター事業について
- 2) 各県における女性医師支援の活動報告等について
- 3) その他
- 4) 日本医師会への要望、提言について

第3回日本医師会支援センター事業九州ブロック会議は平成23年12月4日(日)に鹿児島県医師会館で開催され、私と小田真理副会長が出席した。

池田琢哉鹿児島県医師会長、羽生田俊日本医師会副会長、保坂シゲリ日本医師会常任理事の挨拶の後、日本医師会女性医師支援事業についての報告があった。H23.11.30現在、求職登録者数：277名、求人登録者数：1,330施設、求人登録件数：986件で、就業実績は284件（就業成立：268件、再研修紹介：16件）である。

次いで、各県における女性医師の支援の活動報告について報告・協議がなされた。

- ① 福岡県・・・県内に4大学医学部が存在することが特徴である。女性医師の会はなく、男女共同参画部として活動している。大学での講義、シンポジウムのほか、復職のための「ステップアップ外来」など「きらめきプロジェクト」としての活動が紹介された。本年度作成された「医師の勤務環境に関する実態調査結果報告書」「女性医師支援に関する事業についての調査結果報告書」が配布された。
- ② 佐賀県・・・HPを作ったり、ティーパーティで交流を深めたり、シンポジウムを行っている。支援相談窓口は佐賀大で、相談件数は7件が産休に関するもの、11件はベビーシッター・就職・復職に関するものであった。
- ③ 長崎県・・・ワークライフバランス窓口は大学である。夫婦50名に参加してもらってのシンポジウムや託児サービスを行っている。
- ④ 熊本県・・・市医師会が活発に活動している。水俣市立総合医療センターでの女性医師の環境整備（院内保育所・宿舍・当直室など）についての活動が報告された。宿舍が整備されたことで、女性医師の応募が増加したそうである。

- ⑤ 大分県・・・今までの女性医師の会の活動経過を私が報告した。
- ⑥ 宮崎県・・・行政からの報告と、大学からは女性医師相談窓口、研修・講習会の託児サービス・女性医師情報交換会などの報告があった。
- ⑦ 沖縄県・・・今までに5回のフォーラムが実施されているが、4回目からは専門医の必要性・専門医の取り方をテーマにしている点が特色であった。
- ⑧ 鹿児島県・・・女性医師支援室の活動状況が報告された。HPに保育サポート情報・復職研修の案内・各種相談窓口などが掲載されている。また医学部医学科女子学生に卒業時エールを含めた資料を配布している。医師を目指す中・高校生を対象に「医師である生きがいと使命」というテーマで公開講座を開催し、300名が参加している。医学科の1, 3, 6年生にアンケートを取り、医師に関する認識の変化を把握している。

各県ともそれぞれ特色ある取り組み方が伺え、大変参考になった。

本県でも検討中である「管理者向けのアンケートの実施」や支援窓口の設置などが今後の課題であると思われる。HPでも更なる情報の提示が求められると思う。

会議の後の懇親会では実際コーディネーターをしている先生から本音のトークが聞けたが、就業のマッチング（勤務時間などの細かい調整）の苦労が大変なようである。

大分大学でも高校生に対する大学の働きかけが報道されていたが、早期から「医師の在り方」について考える情報を提供することも必要であろう。

